

宇都宮市 学校 情報教育 だより

～ 児童生徒の情報活用能力の育成やICTの効果的な活用についての情報を紹介します。～

タブレット型パソコンの導入を見据えて、教員のICT活用指導力の向上を・・・

いよいよ宇都宮市内の小中学校93校に、平成28年度から5年計画で順次タブレット型PCが導入されます。計画の初年度である平成28年度は、上河内地区、河内地区の小学校9校（上河内東小、上河内西小、上河内中央小、岡本小、白沢小、田原小、岡本西小、岡本北小、田原西小）中学校4校（上河内中、古里中、田原中、河内中）のパソコン室のPCの入れ替えが計画されています。導入に先立ち、情報教育主任研修、ICT活用授業力向上研修などの研修で、タブレットをはじめとしたICT機器の活用について、教職員の学びが進められています。



5/23 情報教育主任研修

国やNHK、教科書出版社等多くの事業に従事され、全国で教育の情報化に携わっておられる放送大学 教授 中川一史先生をお招きし、「協働的な学びとタブレット端末の活用」と題した講話をいただきました。

タブレットは、特に思考を可視化させるツールとして有効である一方で、動きを見せるような必要のないところでは、さっと使えてたくさん書き込める紙の方が勝る場合もあることから、それぞれの長所を活かした活用を心がけるべきとお話でした。思考を可視化するツールとして、特性を生かしたタブレット型パソコンの使い方を考えるために、ICTを活用する際に失敗しがちな事例を提示しながらのお話は大変分かりやすく、参考になるものでした。

アメリカをはじめとした諸外国での今後のICT機器導入の流れも、私たちには大変示唆に富んだお話でした。

6/2 ICT活用授業力向上研修

地元宇都宮で我々と同じ教員として晃陽中学校に勤務された経験をお持ちの宇都宮大学 准教授 川島芳昭先生をお招きし、「新学習指導要領で求められるICT活用」と題した講話をいただきました。

先が読みにくいこれからの時代、「ただ教科書を伝えるような教員は要らなくなる」という厳しいお話からスタートして、新たな学習指導要領を見据えて、「これから私たちがなぜICT技術と向き合っていかなければいけないのか」について、お話しいただきました。

能動的に実体験することが学習として一番効率がよく、受動的に話を聞くだけと比べると学習効果がかなり異なることを「経験の円錐」で説明していただき、疑似体験を目指すICT活用の意味が大変分かりやすく説明されていました。我々教員が自分の授業を見直すことができるような内容で大変参考になりました。

